



文化財活用センター事業報告書 2023年度



独立行政法人国立文化財機構

文化財活用センター

文化財を1000年先、2000年先の未来に伝えるために

文化財は、長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた人類のたからものです。私たちは、文化財を通して、それをつくり、つかった人びとの暮らし、大切にしてきた思い、美しいと感じる場所に触れ、歴史やそこに流れる伝統的な価値観を学ぶことができます。それは、私たちがお互いを尊重し、豊かな人生を生きるための糧であり、新たな文化を創造する源になります。



この人類のたからものである〈文化財〉を1000年先、2000年先の未来に伝えることは、今を生きる私たちに課された重要な使命です。

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じることができるよう、文化財の活用に関する新たな方法や機会を開発し、情報基盤の整備を目指します。これまでミュージアムを利用する機会に恵まれなかった人を含め、多くの人びとが、文化財を通して豊かな体験と学びを得ることができるよう、文化財を活用した新たなコンテンツやプログラムの開発を行います。

文化財に関わるすべての人びとが、自ら発案し、その力を発揮する機会をつくるとともに、人材育成に取り組み、地域の活性化にも寄与します。

ミュージアムに関わる人はもちろん、一般市民も、企業やさまざまな社会的団体も、すべての人びとが、文化財を「守り」「伝える」ために、考え、参加する社会を作ります。



ご挨拶

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、2018年7月、独立行政法人国立文化財機構に設置された組織です。文化財の保存と活用の両方に留意しながら、多くの人に文化財を通して豊かな経験と学びを得る機会を提供することを目指して、さまざまな活動を行っています。

本報告書は、2023年度に実施した事業について、その概要と成果を記録、公開することを目的として作成したものです。

2023年に〈ぶんかつ〉は設置から5周年を迎えました。新しい事業を開発するのみならず、これまでに創り上げてきた事業や取組を次のステップへと展開させることにも注力してまいりました。広島で開催されたG7やニューデリーでのG20に文化財の複製やデジタルコンテンツを展開し、国外の方にも〈ぶんかつ〉の取組をご覧いただく機会を得るなど、文化財活用の方は着実に広がっています。

また、機構所蔵文化財の貸与促進や、保存環境に関する調査協力・研修等を通して、地域のミュージアムとの協力・連携に積極的に取り組むとともに、デジタル資源化を推進し、情報の利活用を促進してまいりました。加えて、ファンドレイジング活動では、これまでご支援をいただいたみなさまに修理報告や鑑賞会を実施し、いただいたご縁を紡いでいくことに尽力いたしました。

〈ぶんかつ〉の活動にご協力いただいている関係機関、関係者の皆様、〈ぶんかつ〉が実施した各種事業にご参加・ご賛同いただいた多くの方々に、あらためて心より感謝申し上げます。

5周年を終え、2024年度はまた新たな一歩を踏み出す年となります。多くの方に文化財に親しみを持っていただき、文化財を未来へとつなぐ、というのが私たち〈ぶんかつ〉のミッションです。文化財活用のナショナルセンターとして、これまでの5年間で培った知識や経験を機構の枠を超え広く全国のミュージアム等に還元できるよう、常に「とびら」を開き、より包摂的な事業を展開してまいります。

今後も引き続き、文化財をより身近に、「きれい!」「楽しい!」「面白い!」と感じていただけるよう、職員一丸となって尽力してまいります。常に「進化」し続ける〈ぶんかつ〉の取組にご期待ください。

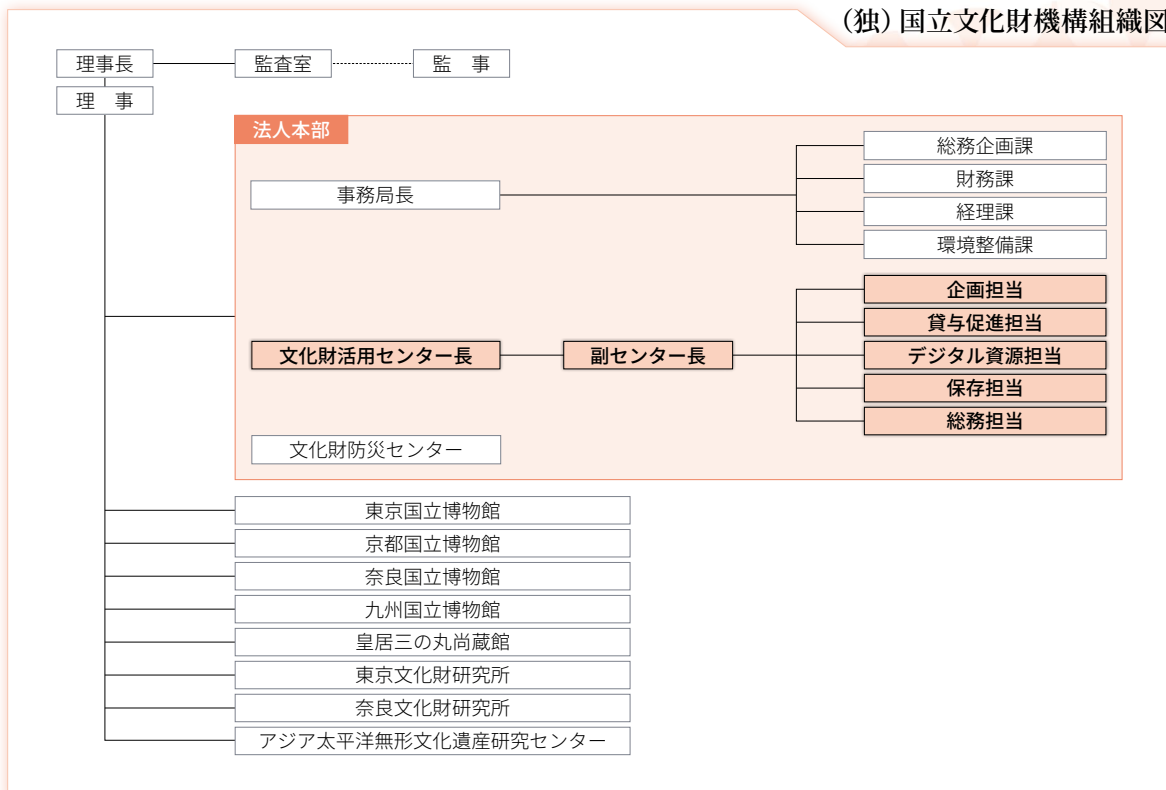
文化財活用センター長 大美 慶昌



組織図

(2024年3月31日時点)

(独) 国立文化財機構組織図



概要

2023年度 世界に向けて発信

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、あらゆる地域で、すべての人びとが、文化財を通して豊かな体験と学びを得ることができるよう、さまざまな活動を行っている。そして、その体験と学びが、きれい！楽しい！面白い！であるように、新しいアイデアや技術を取り入れている。

■世界に向けて発信

2023年はG7広島サミットがあったが、文化財活用センターは4月のG7外務大臣会合（於軽井沢町）、5月のG7首脳会合で日本文化の発信をおこなった。外務大臣会合では、ワーキングディナー会場に複製屏風を展示し、食事をしながら日本文化を楽しんでいただいた。首脳会合では国際メディアセンターで複製屏風とプロジェクションマッピングを用いた「季節をめぐる高精細複製屏風」の展示を行って世界のメディアに発信し、サミット後は広島在住者に公開した。9月にインドで開催されたG20ニューデリー・サミットには、「小袖 白綾地秋草模様（通称〈冬木小袖〉）」の複製とデジタルデータ、「〈冬木小袖〉ミク」のフィギュアを出品し、日本文化の魅力を発信した。

■文化財を身近に

多くの人に文化財にふれていただくために、〈ぶんかつ〉が輸送費等を支出して作品を貸し出す国立博物館収蔵品貸与促進事業を引き続き実施し、7機関に対し74件の作品を貸し出した。

文化財の複製を用いた教育プログラムであるアウトリーチプログラムは、〈ぶんかつ〉職員が各地の学校等に赴いて実施するが、学校教員に実施していただけるように見本となる動画も作成し活用を推進している。

2022年度開催の「未来の博物館」で巨大なモニターで上映した洛中洛外図屏風のコンテンツを、一般的に使用されるモニターでも見られるように改修した。手話CGや外国語にも対応し、広く活用していただけるようになった。

■日常業務の積み重ね

国立文化財機構所蔵の作品を横断的に検索可能なColBaseや、国宝と重要文化財の高精細画像を提供するe国宝は、データの追加、修正を日々行っている。ColBase掲載画像は目的を問わず自由に使用していただけるが、整備の参考とするために回答は任意であるが使用目的のアンケート機能を追加した。

各地の博物館等で開催される展覧会は、国宝や重要文化財をはじめとした文化財を鑑賞する貴重な機会である。〈ぶんかつ〉は文化庁に協力して、よりよい展示環境を実現するための調査、助言をしている。2023年度は41施設を対象とした。

■いま求められるファンドレイジング

2023年度はファンドレイジングの大型プロジェクトは実施しなかったが、機構職員を対象とした勉強会を毎月開催して、ファンドレイジングに対する意識の醸成を図った。

自然災害発生時の初動活動に必要な資金獲得のため、文化財防災センターとファンドレイジングを実施する準備を進めていたが、その矢先に能登半島地震が発生した。当面延期となったが、今回の経験を踏まえて改めて実施したいと考えている。

■今後の課題

〈ぶんかつ〉が活動を始めて6年目になったが、「あらゆる地域で、すべての人びとが、文化財を通して豊かな体験と学びを得ることができるように活動する」というミッションを見つめなおしたい。新しかったことが日常化してきているので、それらを継続、再検討しながら新しいことに挑戦する必要がある。

〈ぶんかつ〉全体での取組

国際会議において複製やコンテンツ等を公開することで、日本文化の国内外への発信に取り組んだ。

G7広島サミットにおける高精複製屏風を活用した日本文化の発信

① G7外務大臣会合

●メディア取材拠点「国際メディアセンター (IMC)」での政府広報展示への出展

「風神雷神凶屏風」の高精細複製品の展示、日本博PR動画・キャノン株式会社による高精細複製屏風の制作技術紹介動画の上映を行った。

会期	2023年4月15日(土)～4月18日(火)
会場	風越公園総合体育館



G7外務大臣会合IMCにおける展示

●公式行事への貢献

「秋草図屏風」の高精細複製品をワーキングディナー会場に華を添える調度品として設置した。

② G7首脳会合

●メディア取材拠点「国際メディアセンター (IMC)」での政府広報展示への出展

プロジェクションマッピングを用いた展示「季節をめぐる高精細複製屏風」および高精細複製品の展示を行った。

会期	2023年5月19日(金)～5月21日(日)
会場	広島県立総合体育館弓道場



プロジェクションマッピングを用いた展示



③ G7アフターサミット

●メディア取材拠点「国際メディアセンター (IMC)」での政府広報展示への出展

サミット終了後に一般に公開された首脳会合の際の展示を約1400名が見学し、プロジェクションマッピングなどを体験した。

会期	2023年5月24日(水)～5月27日(土)
会場	広島県立総合体育館弓道場



小学生の鑑賞体験の様子

G20ニューデリー・サミットにおける文化財の複製を活用した日本文化の発信

文化プロジェクトとして開催されたデジタルミュージアムに「小袖白綾地秋草模様(通称〈冬木小袖〉)」の複製、デジタルデータ、「〈冬木小袖〉ミク」のフィギュアを出品し、日本文化の魅力を発信した。



Cultural Corridorにおける展示

企画担当

企業等と連携して、先端的な技術を用いた文化財の複製やデジタルコンテンツを開発するとともに、体験型展示を国立博物館ならびに地域のミュージアムで展開。これまでミュージアムを利用する機会がなかった方々を含め全国の多くの人びとが、文化財に親しみ、豊かな体験と学びを得ることを目指す。

実施事業数
5件

■ 体験型展示(レプリカ・デジタルコンテンツ活用)

2018年の発足から2022年度までの活動をベースに、文化財の複製や映像等のデジタルコンテンツを使った体験型展示を東京国立博物館および地域の施設で展開した。普段日本の古い美術品にふれる機会の少ない方々や、博物館に来たことのない方々にも、文化財の魅力を感じてもらえる機会となることを意識し、親しみやすいコンテンツの制作と活用に取り組んだ。

① 日本美術のとびら

会期	通年展示
会場	東京国立博物館 本館特別3室
概要	映像、高精細複製品やデジタルコンテンツによる、日本美術を楽しむための常設の体験展示スペース。より多くの人々がインタラクティブに文化財に親しめるよう、展示室内には以下の4つのコーナーを設置。 <ul style="list-style-type: none"> ■ コーナー1：みる 〈日本文化紹介映像〉 ■ コーナー2：たのしむ 〈日本美術のデジタル年表〉 ■ コーナー3：かんじる 〈高精細複製品〉 ※季節に合わせて展示替え ■ コーナー4：さわる 〈8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」〉 ※2024年1月2日(火)～公開



② デジタル法隆寺宝物館

会期	通年展示 ※半年ごとに展示替え
会場	東京国立博物館 法隆寺宝物館中2階
概要	常時展示がかなわない法隆寺ゆかりの名宝を、デジタルコンテンツや複製でくわしく鑑賞、体験できる展示室。国宝「聖徳太子絵伝」や「法隆寺金堂壁画」をテーマに、グラフィックパネル(複製)と、大型8Kモニターで絵の詳細まで自在に鑑賞できるデジタルコンテンツを展示。そのほか、伎楽という芸能の色鮮やかな世界観を示す伎楽面や装束の復元模造を組み合わせて古代美術の魅力を紹介。
アンケート結果	満足度 日本語87.1%、英語94.7%



③ 8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」

会期	2023年7月11日(火)～9月3日(日)
会場	九州国立博物館
概要	九州国立博物館と共同し、同館の特別展「憧れの東洋陶磁 ― 大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」内でインタラクティブなデジタルコンテンツ「ふれる・まわせる名茶碗」を公開した。 ※文化庁「令和3年度 地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業(先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト)」により制作
アンケート結果	満足度96.8%



④ びじゅチューン!×横浜トリエンナーレ なりきり美術館

会期 2024年3月15日(金)～4月7日(日)

会場 NHK横浜放送局

概要 NHK・Eテレの人気番組「びじゅチューン!」で歌になった美術作品の複製や映像を使った体験型展示「なりきり美術館」を、第8回横浜トリエンナーレ(2024年3月～6月)の関連イベントとして、NHK横浜放送局において開催。東京国立博物館所蔵品に関連した4つのコンテンツを公開した。

アンケート結果 満足度88.6%



⑤ 8Kで楽しむ国宝屏風「洛中洛外 京めぐり」

会期 2024年3月19日(火)～4月7日(日)

会場 東京国立博物館 平成館ガイダンスルーム

概要 2022年「未来の博物館一時空をこえる8K」で公開した8Kコンテンツ「時間をこえた出会い—洛中洛外 400年前の京都へ」を、地域の博物館・美術館・展示施設などへ貸出可能な形式へ変換し、手話CG、日英字幕など外国人や聴覚障がいのある方々に対応した社会包摂的なサービスを加え改修。実証実験として再公開した。

アンケート結果 満足度(全体) 日本語95.9%、英語97.3%
(字幕サービス) 日本語86.9%、英語82.9%
(手話CG) 日本語90.4%、英語83.3%



■ レプリカ・VR・デジタルコンテンツ・関連プログラム等の開発・展開

企業や各種団体と連携して、先端的な技術による文化財の複製の製作、照明効果や映像、8Kなどの最先端技術を用いたデジタルコンテンツの開発を継続して行ったほか、関連動画を制作した。

2023年度は、キヤノン株式会社との共同研究で、国宝「唐獅子図屏風」、国宝「動植綵絵」(ともに皇居三の丸尚蔵館収蔵)、「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」(大英博物館所蔵)の高精細複製品の製作を開始したほか、展示やハンズオンなどでの活用を目的とし、東京国立博物館所蔵の国宝「埴輪 挂甲の武人(彩色復元)」、(樹脂製)、「土偶(上黒駒)」(樹脂製)、重文「みみづく土偶」(樹脂製・土製)、国宝「扁平鈕式銅鐸」(追加加工)、国宝「扁平鈕式銅鐸」(金属製)、「自在蛇置物」、京都国立博物館所蔵の重文「果蔬涅槃図」、奈良国立博物館所蔵の「阿弥陀如来立像(裸形)」、国宝「地獄草紙」、国宝「辟邪絵」、九州国立博物館所蔵の「六区袈裟褌文銅鐸」(金属製)などの複製、オンライン用コンテンツ/デジタルコンテンツなどを製作・開発した。



高精細複製品
「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」



ハンズオンレプリカ
国宝「埴輪 挂甲の武人」
(彩色復元)



ハンズオンレプリカ
「阿弥陀如来立像(裸形)」



ハンズオンレプリカ
「六区袈裟褌文銅鐸」
(金属製)

複製・デジタルコンテンツ活用事業

文化財の複製を博物館・美術館・企業などに貸し出した。高精細複製品を活用した「ぶんかつアウトリーチプログラム」では、全国の小中高等学校、博物館、教員研修にて教育プログラムを実施し、特別支援学校の生徒を含む児童生徒・来館者が参加した。特別支援学校用のキット開発や、鑑賞授業の実践者向けの参考動画制作も行った。また、奈良文化財研究所と協力し、「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」を実施するなど、機構内他施設との連携も促進した。

貸出件数
10件

① 文化財の複製・デジタルコンテンツ貸出事業

博物館・美術館での展示や、商用利用を目的とした文化財の複製およびデジタルコンテンツの貸出を行った。

● 文化財の複製貸出 (申し込み件数9件のうち、有料4件)

2023年 4月	キャノン株式会社	花下遊楽図屏風、洛中洛外図屏風(舟木本)
2023年 4月	株式会社NHKエデュケーショナル	洛中洛外図屏風(舟木本)
2023年 9月	凸版印刷株式会社	小袖 見返り美人図
2023年 9月	奈良県立美術館	伎楽面 呉女、伎楽装束 裳
2023年 10月	凸版印刷株式会社	小袖 白綾地秋草模様
2023年 10月	キャノン株式会社	見返り美人図、風神雷神図/夏秋草図屏風
2023年 10月	キャノン株式会社	歌舞伎図屏風
2023年 11月	株式会社JTBコミュニケーションデザイン	花下遊楽図屏風
2023年 11月	キャノン株式会社	檜図屏風、松林図屏風、風神雷神/夏秋草図屏風、納涼図屏風

● デジタルコンテンツ貸出 (1件)

2024年 3月~4月	NHK横浜放送局	びじゅチューン!×横浜トリエンナーレ なりきり美術館
-------------	----------	----------------------------



キャノンギャラリー50周年企画展 綴プロジェクト作品展「高精細複製品で綴る日本の美」
会場:キャノンタワー1階 ギャラリーS

実施件数
28件

② 教育プログラムの提供

東京国立博物館と共同で「ぶんかつアウトリーチプログラム」28件を実施し、特別支援学校の生徒、教員研修参加者を含む2,578名が参加した(うち講師派遣あり23件、なし5件)。
また、2022年度の報告書を刊行した。



ぶんかつアウトリーチプログラムの授業の様子

2023年度 文化財をテリハリー
ぶんかつアウトリーチプログラム

国立奈良文化財研究所 文化財活用センター「ぶんかつ」による「ぶんかつアウトリーチプログラム」は、奈良時代の神代紙、唐紙や平安朝、室町時代から江戸時代まで幅広い時代・ジャンル・用途の複製品を、学校の授業や研修、鑑賞活動などに活用し、文化財の魅力を伝えることを目的としています。

複製品・複製品を伴ったプログラム、学校の授業や研修、鑑賞活動などに活用しています。また、特別支援学校用の複製品・複製品を伴ったプログラムも提供しています。

複製品・複製品を伴ったプログラム、学校の授業や研修、鑑賞活動などに活用しています。また、特別支援学校用の複製品・複製品を伴ったプログラムも提供しています。

ホンモノと見分けるのが難しいくらいの高精細複製品を使用!

実施方法
[A] 複製品を含むキット貸出と講師派遣 (事前打ち合わせ必須)
奈良文化財研究所・センター・センター、東京国立博物館の複製品・複製品が利用できます。
[B] 複製品を含むキット貸出 (事前打ち合わせ必須)
複製品・複製品を伴ったプログラム、学校の授業や研修、鑑賞活動などに活用しています。

問い合わせ先
国立奈良文化財研究所 文化財活用センター 企画課
〒742-8601 奈良県奈良市文化センター1700
TEL: 0742-36-0133 (受付時間: 9:00~17:00)
E: nara@nara.go.jp

文化財活用センター 東京国立博物館 奈良文化財研究所

2023年度 文化財をテリハリー
なぶんけん × ぶんかつ アウトリーチプログラム
奈良時代を体験!!
よみがえった古代のゲーム「かりうち」で遊ぼう!

奈良文化財研究所の複製品・複製品を活用した「なぶんけん × ぶんかつ」アウトリーチプログラムは、奈良時代のゲーム「かりうち」を体験し、古代の遊び方を学ぶことができます。

複製品・複製品を伴ったプログラム、学校の授業や研修、鑑賞活動などに活用しています。また、特別支援学校用の複製品・複製品を伴ったプログラムも提供しています。

実施方法
かりうちキット貸出
複製品・複製品を伴ったプログラム、学校の授業や研修、鑑賞活動などに活用しています。


問い合わせ先
奈良文化財研究所 複製品・複製品を伴ったプログラム 企画課
〒742-8601 奈良県奈良市文化センター1700
TEL: 0742-36-0133 (受付時間: 9:00~17:00)
E: nara@nara.go.jp

文化財活用センター 奈良文化財研究所


■ 企業との連携

企業と連携して、先端的な技術を使った文化財活用方法の開発、文化財の複製やデジタルコンテンツの制作を行うとともに、その成果の公開を進めた。

事業名称	文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト	
連携開始	2018年	
参加事業者	キャノン	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高精細複製品利用による、文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・ 教育プログラムを実施するファシリテーターなど、文化財の活用に係る人材の育成 ・ 高精細複製品について、原本の再現性、耐久性、活用の際の利便性の向上 	
活動概要	高精細複製品製作：3件、教育プログラム実施26件、体験型展示での使用4件、貸出6件	
高精細複製品「唐獅子図屏風」(原本：国所蔵、皇居三の丸尚蔵館収蔵、高精細複製品：皇居三の丸尚蔵館へ管理替え) ▲		

事業名称	バーチャルリアリティに関する共同プロジェクト	
連携開始	2018年	
参加事業者	TOPPAN (旧凸版印刷)・東京国立博物館	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル技術による文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・ デジタル技術を活用した文化財の鑑賞方法の開発 	
活動概要	VR作品監修：1件	
東京国立博物館TNM&TOPPANミュージアムシアター「江戸城の天守」▲		

事業名称	高精細モニターを用いた文化財の活用方法の開発に関する共同プロジェクト	
連携開始	2019年	
参加事業者	シャープ・シャープマーケティングジャパン	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高精細モニターを活用した文化財に親しむ機会の拡大と文化財についての理解促進 ・ 高精細モニターを活用した文化財の鑑賞方法の開発とデバイス・コンテンツの制作 	
活動概要	コンテンツの開発：1件 江戸時代の小袖に着目したデジタルコンテンツの新規開発に着手した。	

事業名称	みんなの8K文化財プロジェクト	
連携開始	2020年	
参加事業者	NHK・東京国立博物館	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最先端のスキャナーやフォトグラメトリ技術(多方向から撮影した画像を統合し3D化する技術)を使用した3DCG「8K文化財」の制作 ・ 8K文化財を活用した放送番組の制作と放映、展覧会などのイベント実施、情報通信ネットワークなどでの発表 ・ 制作した8K文化財コンテンツの活用 	
活動概要	コンテンツ新規制作：2件 東京国立博物館展覧会(特別展「本阿弥光悦の大宇宙」、建立900年 特別展「中尊寺金色堂」)での活用2件、その他放送、イベント、インターネット、大学授業等で8K文化財の活用合計20件。	
8K文化財の公開(特別展「本阿弥光悦の大宇宙」会場) ▲		

事業名称	文化財複製を活用した巡回展示キット開発にかかる共同研究プロジェクト	
連携開始	2024年1月	
参加事業者	科学系博物館イノベーションセンター(国立科学博物館)	
目的	・ 文化財の複製を活用し、全国の博物館・美術館等へ簡易に輸送し展示することができる文理融合型の巡回展示キットの開発	
活動概要	文化財複製を活用した巡回展示キット開発に向けた研究会の開催	

貸与促進担当

国立博物館は、従来から収蔵品を自らの施設で展示公開するだけでなく、外部のミュージアムにも貸し出し、国内外の展覧会に協力してきた。〈ぶんかつ〉は、日本とアジアの歴史・文化をよりいっそう広く伝えるため、国立博物館の収蔵品貸与の促進に取り組む。

貸与促進事業

実施館
7件


貸与件数
74件

来場者数
41,807人

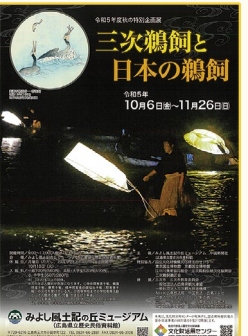
国立博物館と共同で、日本とアジアの歴史・伝統文化の発信ならびに地方創生・観光振興、次世代への文化財の継承に寄与することを目的として、国内各地のミュージアムに対して国立博物館の収蔵品を貸し出し、それにかかる作品輸送費等を支出する「国立博物館収蔵品貸与促進事業」を実施した。


2023年度は、島根県立石見美術館等7施設に、計74件の文化財を貸し出し、総計41,807人の方が鑑賞の機会を得た。事業のより幅広い層への周知のため、実施館への広報支援も行った。また、貸し出し可能な文化財の充実をはかるため、本格修理や応急修理を行った。


実施館	島根県芸術文化センター (島根県立石見美術館) (島根県)	
展覧会名称	「没後150年 山本菜谷と津和野藩の絵師たち」	
会期	2023年7月8日～8月28日	
貸与件数	7件	
来場者数	2,898人	
満足度	97.9%	


実施館	市立岡谷美術考古館 (長野県)	
展覧会名称	「天王垣外遺跡の勾玉・管玉 ～東京国立博物館から115年ぶりの里帰り～」	
会期	2023年7月15日～9月18日	
貸与件数	13件	
来場者数	2,950人	
満足度	89.9%	

実施館	山口県立山口博物館 (山口県)	
展覧会名称	「やまぐち 大考古博 ～みよう、ふれよう、やまぐちの3000年～」	
会期	2023年7月21日～9月3日	
貸与件数	13件	
来場者数	8,023人	
満足度	93.3%	

実施館	広島県立歴史民俗資料館 (広島県)	
展覧会名称	「三次鶺鴒と日本の鶺鴒」	
会期	2023年10月6日～11月26日	
貸与件数	8件	
来場者数	1,575人	
満足度	86.7%	

実施館	兵庫県立美術館 (兵庫県)	
展覧会名称	「生誕180年記念 呉昌碩の世界—海上派と西冷名家—」	
会期	2024年1月13日～4月7日	
貸与件数	11件	
来場者数	15,296人	
満足度	84.2%	

実施館	糸島市立伊都国歴史博物館 (福岡県)	
展覧会名称	「東西日本の弥生文化 ～東京国立博物館収蔵コレクションより～」	
会期	2024年1月27日～3月17日	
貸与件数	20件	
来場者数	2,974人	
満足度	94.6%	

実施館	下関市立美術館 (山口県)	
展覧会名称	「開館40周年記念特別展 狩野芳崖、継がれる想い—悲母観音からはじまる物語—」	
会期	2024年2月6日～3月17日	
貸与件数	2件	
来場者数	7,461人	
満足度	93.3%	



兵庫県立美術館
「生誕180年記念 呉昌碩の世界—海上派と西冷名家—」展示風景

保存担当

博物館や美術館等、文化財保存施設における、展示・収蔵環境管理に関する相談対応、改善のための調査、技術支援、また、研修会や講習会の開催などを通じて、質の高い文化財の保存と活用の両立に寄与する。

対応件数
140件

■ 保存環境に関する相談対応、調査協力など

博物館・美術館等からの展示・収蔵環境に関する相談に対応し、必要に応じて現地調査、改善のための協力を行った。また、文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国指定品の公開を予定している博物館・美術館を対象とした保存環境調査について、文化庁からの協力依頼を受けて行った。

● 内容等

- 文化財の保存環境管理、改善に関する相談対応 (85件うち12件に対して現地調査を実施)
- 新築・増改築を行う施設の設計、設備等に関する対面、またはリモートでの協議 (9件)
- 国指定品の所有者以外による公開に関わる資料保存環境調査 (対応件数43件)
- 公開承認施設申請に係る環境調査や改善への助言 (1件)
- 令和5年度および6年度貸与促進事業内定施設の保存環境調査 (2件)



収蔵庫での調査の様子

■ 保存環境に関する研修会等人材育成事業

学芸員や自治体の文化財行政担当者に、文化財保存施設における環境管理の基礎を学んでいただくことを趣旨とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修(基礎コース)」、および、保存管理専従者や、文化財保存の研究者などを対象とした、環境調査や管理に関する深い知識を学ぶための「保存環境調査・管理に関する講習会」をそれぞれ開催した。

研修会等	博物館・美術館等保存担当学芸員研修(基礎コース)
主催	文化財活用センター
参加者数	①21名 ②23名
期間	①2023年7月31日～8月4日 ②2024年1月22日～1月26日

研修会等	第6回保存環境調査・管理に関する講習会 —木材、合板代替としての無機質系ボード—
主催	文化財活用センター、東京文化財研究所
参加者数	24名(うち19名リモート参加)
期間	2023年10月2日

研修会等	第7回保存環境調査・管理に関する講習会 —地球温暖化を見据えた持続可能な環境管理—
主催	文化財活用センター、東京文化財研究所
参加者数	21名(うち16名リモート参加)
期間	2024年3月1日



保存環境調査・管理に関する講習会

■ 保存環境に関する基礎研究等業績

1. “展示ケース内で使用されるクロス材からのアンモニア放散と原因等に関する調査研究”(吉田直人、間淵創)
文化財保存修復学会第45回大会
2. “文化財保存におけるカビの驚異”(間淵創)
絲綢之路103号(文化財保護・芸術研究助成財団)

デジタル資源担当

機構各施設の保有する文化財に関わるテキスト、画像といった情報を連携させ、デジタル資源化を推進するとともに、情報の利活用を促進する。

文化財のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信

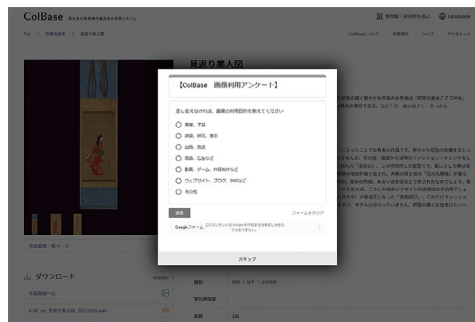
① ColBase (国立文化財機構所蔵品統合検索システム)

「作品種別」の整備を進めるとともに、画像の追加、解説文等のデータ更新を行った。データの利用実態を把握・分析するため、画像ダウンロード時に利用目的を尋ねるアンケート画面を表示する改修を行った。

● 掲載件数 (2024年3月末)

	日本語	英語	中国語	韓国語
総件数 (総作品数)	134,092 (147,139)	33,437 (41,099)	13,774 (15,764)	13,896 (15,870)
解説掲載件数	15,124	6,155	4,104	4,135
画像掲載件数 (※1)	37,300	24,075	11,520	11,388

※1 2023年度画像追加件数:5,289件 24,888枚

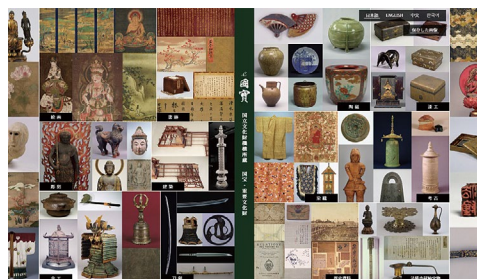


ColBase画像ダウンロード時のアンケート画面

② e国宝 (国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財 デジタル高精細画像)

新規作品を追加するとともに、解説文の更新、多言語解説の翻訳見直しを行った。また管理機能を改修し、効率的なデータ更新を行えるようにした。

アクセス数	193,341件	(2024年3月末)
掲載件数	1,145件	(2024年3月末)



e国宝トップページ

総務担当

企業、各種団体、および広く一般の個人を対象としたファンドレイジング活動を通して、多くの人が文化財に親しみをもつとともに、文化財の保存と活用に参画する機会を創出する。

ファンドレイジング事業

① 寄附ポータルサイトの運営

機構各施設の寄附受入に関する情報を集約し、クレジットカード・銀行振込での決済を可能とするサイト「国立文化財機構寄附ポータルサイト」を継続して運営するとともに、2024年3月から皇居三の丸尚蔵館への寄附の受入を開始した。

国立文化財機構寄附ポータルサイト	2023年度寄附金額 (開設からの総計)	3,460,000円 20,249,000円)
------------------	-------------------------	----------------------------



国立文化財機構寄附ポータルサイト トップページ

② これまでのファンドレイジング事業にかかる文化財修理状況の報告、支援者とのコミュニケーション

●〈冬木小袖〉修理プロジェクト

東京国立博物館と共同で実施した重要文化財「小袖 白綾地秋草模様（通称〈冬木小袖〉）」の修理費等を募るプロジェクト。〈冬木小袖〉の修理完了に際し、修理報告動画・冊子の製作・公開を行った。また、修理後初展示にあわせた高額寄附者向け特別鑑賞会の実施など、寄附への謝意を示すとともに継続的な支援の呼びかけを行った。

募集期間	目標額	受入総額
2020年1月17日～2021年12月31日	15,000,000円	16,451,470円



高額寄附者向け特別鑑賞会

●踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト

東京国立博物館の創立150周年を記念し、東京国立博物館と共同で実施した「埴輪 踊る人々」と「見返り美人図」の修理費等を募るプロジェクト。キャラクター「初音ミク」とのコラボを引き続き展開し、グッズ製造高に応じて、2023年度は2,383,100円の寄附を受けた。また、ブログやSNSを通じて修理状況のレポートを配信し、寄附者を中心とした一般に向けて、支援の意義を継続的に発信した。

募集期間	目標額	受入総額
2022年4月1日～2023年3月31日	10,000,000円	15,396,445円



「初音ミク」とのコラボレーションで制作された「見返り美人ミク」グッズ

●ひかり拓本プロジェクト

奈良文化財研究所と共同で実施した、市販の機材だけで石碑の判読を容易にする技術「ひかり拓本」をスマホアプリに仕立て、公開するための資金を募るプロジェクト。アプリのリリースに際し、使用方法をまとめた入門書や解説動画の制作を行った。

募集期間	目標額	受入総額
2022年10月5日～2022年12月2日	3,800,000円(当初目標)	6,530,000円
	▼ 5,000,000円(第2目標)	



ひかり拓本入門書

③ ファンドレイジングの活性化に向けた取組

●ファンドレイジング勉強会の開催

外部資金獲得に向けた取組を機構全体で活性化させるため、ファンドレイジング事業実施に関する情報共有等を行うための勉強会を実施した。

	日程	テーマ
第1回	2023年 3月 15日	文化財の保存と活用に関するファンドレイジング【講師：鶴尾雅隆氏（日本ファンドレイジング協会 代表理事）】
第2回	2023年 5月 10日	ファンドレイジングの進め方、過去事例、国内事例紹介
第3回	2023年 6月 29日	東京国立博物館、文化財活用センターにおける企業協賛
第4回	2023年 7月 27日	ひかり拓本プロジェクトの振り返り
第5回	2023年 9月 27日	機構の財務状況と寄附金の重要性
第6回	2023年 10月 26日	遺贈寄附 特別講演【講師：齋藤弘道氏（全国レガシーギフト協会 理事）】
第7回	2023年 11月 21日	奈良博茶室・庭園整備のクラウドファンディング
第8回	2023年 12月 12日	ファンドレイジング基礎研修【講師：日本ファンドレイジング協会】
第9回	2024年 2月 21日	企業とのよりよい関係のために～企業メセナの歴史と最新動向【講師：澤田澄子氏（企業メセナ協議会 常務理事）】
第10回	2024年 3月 13日	米国のキュレーターのFR活動【講師：James Ulak氏（フリーア/サックラー・ギャラリー 名誉キュレーター）】

●「寄附したくなる募金箱」への改修と設置

機構各施設において、募金箱を契機とした寄附事業に関する広報発信の強化に取り組んだ。2023年度は、奈良国立博物館内に移動式の募金箱を設置するとともに、パンフレット等の整備を進めた。



奈良国立博物館内の募金箱

広報実績

(集計期間2023年4月1日～2024年3月31日)

ぶんかつウェブサイト (<https://cpcp.nich.go.jp/>)

ページビュー数 94,525 (セッション数)

閲覧数の多いページ

- 1 トップページ 9.4%
- 2 デジタル法隆寺宝物館 5.5%
- 3 展示・イベント 3.1%
- 4 ぶんかつブログ 3.1%
- 5 国立文化財機構データベース 2.3%

訪問者言語

- 日本語 92.4%
- 英語 4.2%
- 中国語 2.2%

主な更新事項

- トップページ、ブログ一覧等の改修



ぶんかつブログ (<https://cpcp.nich.go.jp/modules/rblog/1/>)

進行中の事業、イベントや展示の見どころ、活動の舞台裏、文化財にまつわる基礎知識などを各担当のスタッフが紹介。

投稿件数 32件 (総投稿数 161件)



SNS発信

ぶんかつや機構内他機関の展示・イベント、研修等、旬な情報を、SNSを活用して発信

- X (旧Twitter) @cpcp_nich
…3,186フォロワー／総ポスト数 1388 ※リポスト含
- Instagram@cpcp_nich
…1,535フォロワー／総投稿数 421
- YouTube ぶんかつ【文化財活用センター】
…チャンネル登録者数 1,150人／総投稿数 43

プレスリリース配信・記者内覧会等の実施

配信件数 10件

国内外メディアに向けて、ぶんかつが取り組む事業に関する情報を発信した。過去のプレスリリースは下記参照。

https://cpcp.nich.go.jp/modules/r_db/index.php?controller=list&t=db_for_press&past=1

記者内覧会等の実施 1件

- 1 2023年8月1日 文化財活用センター5周年記念記者懇談会
デジタル法隆寺宝物館報道内覧会

動画制作

YouTubeぶんかつ【文化財活用センター】チャンネル (<https://www.youtube.com/c/cpcpnich/channels>) にて、ぶんかつが手掛ける事業や体験型展示の紹介、複製品、デジタルコンテンツ制作の舞台裏、アウトリーチプログラムについての教員向け動画、シンポジウム等のアーカイブ動画などを公開。



2023年度公開件数 6件

パンフレット・チラシ等、印刷物制作 (9件)

- 1 文化財活用センターパンフレット
- 2 文化財活用センター事業報告書 2022年度
- 3 2022年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書
- 4 2025年度 国立文化財機構所蔵品貸与促進事業実施対象館募集チラシ
- 5 デジタル法隆寺宝物館改訂版リーフレット※日英中韓 4言語
- 6 2024年度ぶんかつアウトリーチプログラム募集チラシ
- 7 2024年度なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム募集チラシ
- 8 あなたのもとに国宝が!?ぶんかつ文化財複製のお貸出しチラシ
- 9 〈冬木小袖〉修理プロジェクト報告書

地域での広報

貸与促進事業実施館地域での広告【有料】

実施館 : 市立岡谷美術考古館

掲出媒体等 : ポスター・チラシ、「信濃毎日新聞」広告掲載(※)、
テレビCM(※)

実施館 : 山口県立山口博物館

掲出媒体等 : ポスター・チラシ、テレビCM、松村邦洋氏(山口ふるさと大使)
他によるスペシャルトークショー及び同氏の公式YouTube
チャンネルにて動画配信(※)

実施館 : 広島県立歴史民俗資料館

掲出媒体等 : ポスター・チラシ、「中国新聞」広告掲載(※)

実施館 : 兵庫県立美術館

掲出媒体等 : ポスター、Facebook・Instagram広告(※)

実施館 : 下関市立美術館

掲出媒体等 : ポスター・チラシ、「毎日新聞」広告掲載、
デジタルサイネージ(※)

(※)は、文化財活用センターから支出された広報費による掲出

職員

(R6.3.31時点)

文化財活用センター長 旭 充 (～2023年6月30日)
副センター長 大美 慶昌 (2023年7月1日～)
丸山 士郎

企画担当

課長 藤田 千織
室長 高橋 美奈子
主任研究員 小島 有紀子
研究員 飯田 茂雄
研究員 沼沢 ゆかり
研究員 増田 政史
研究員 松嶋 雅人
専門職 松沼 穂積
アソシエイトフェロー 加納 彩子
事務補佐員 清水 澄子

貸与促進担当

課長 沖松 健次郎
室長 井出 浩正
室長 小山 弓弦葉
土屋 貴裕
主任専門職 田邊 留美子
関 紀子
アソシエイトフェロー 藤原 千冬

デジタル資源担当

課長 村田 良二
室長 阿児 雄之
専門職 竹内 俊貴
(兼) 田邊 留美子
アソシエイトフェロー 李 芝賢 (2023年5月1日～)
事務補佐員 小田 千奈津
事務補佐員 川合 加容子 (～2023年12月31日)
事務補佐員 敦賀 菜月 (2024年1月1日～)

保存担当

課長 吉田 直人
研究員 間渕 創
野中 昭美
事務補佐員 内藤 百合子

総務担当

課長 坂本 真樹 (～2023年11月9日)
(兼) 課長 丸山 士郎 (2023年11月10日～)
係長 田村 淳朗
係員 松本 日向子
アソシエイトフェロー 菊地 海斗
事務補佐員 岡崎 瑠美
事務補佐員 村山 舞子

文化財活用センター事業報告書 2023年度

発行日 令和6年(2024)6月30日

編集・発行 独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9(東京国立博物館 東洋館5階)

デザイン・印刷 大協印刷株式会社